

平成23年度 杉森中学校 第8回学校運営協議会 会議録

日時 平成 23 年 12 月 14 日(水)

運営協議会 17 時 00 分～19 時 20 分

会場 杉森中学校 会議室

出席者

《協議会委員》 石田 壽文
高崎 彰
大川 洋
伴野 博美
松本 美智子
岡田 円治
安藤 雄太
大熊 康子

大橋 亮介(校長)
傍聴 一野 まり



《杉森中学校事務局》 田邊 克宣(副校長)
白井 克幸(教務主任)
松尾 宏(生活指導主任)
金子 敏治(進路指導主任)
長谷川 祐子(嘱託事務)

司 会
A委員

それでは始めましょう。

駅伝ではよい成績をおさめたそうですね。12月に入り、期末テストや採点で先生方は大変でしょう。3年生はいよいよ受験ですね。生徒のためにこれからもよろしくお願いいたします。前回に引き続き、学校運営にかかわる意見書の取り扱いについて話し合いたいとおもいます。

校 長

今日お配りしましたPTA広報にも書かれていますが、地教連との共催ということで杉森祭が学校行事になりました。杉一小45名・馬橋小88名・その他13名で合計146名の参加がありました。今年はPTAのブースも作っていただきました。何より児童がよろこんでくれたことと生徒たちが真面目に取り組み、小学生を楽しませてくれたことがとてもよかったです。次年度は中身をより充実させ、パワーアップさせていきたいです。

また、その日の夕方神明宮でキャンドルナイトがありました。美術部と生徒会で和150枚に絵付けをし、21名の生徒会その他の生徒が誘導・片付けなどのボランティアとしてキャンドルナイトに参加しました。12月11日(日)駅伝大会で男子3位・女子12位(一時は6位まででありました)になり、男子は2年の古川慶太くんが区間賞をもらいました。12日(月)税についての作文で3年の林遼君が納税貯蓄連合組合から表彰されました。これからも多くの賞にノミネートしてほしいですね。

副校長

12月8日放射能線量検査(8箇所)があり、0.05~0.09マイクロシトーベルトの値がでました。心配する数値ではありません。

教務主任

全校の三者面談がありました。1人15分ずつで、担任・保護者・生徒で午後に行われました。3年は進路が主な話しでした。来週の終業式までは1・2年にとってはゆっくりと授業を進められると思います。教務で学校評価・教育課程の編成などの検討をしています。

1月24日教育課程提出説明会があります。2月末に事前相談がありますので、それまでにまとめておかねばなりません。

1月の予定は2年生が1月25日~28日まで菅平スキー教室です。この時期書初展・作品展・吹奏楽のウインターコンサートなどの芸術的な催しがあります。3年は16日から出願です。都立の推薦が27日です。

生活指導 生徒の様子をお知らせします。キャンドルナイトなど、色々な機会を
あたえていただき、生徒たちもがんばっています。駅伝は3年生二人が
出場を悩んでいましたが、終わってみたら、「参加してよかった」とと
ても良い笑顔を見せてくれました。女子は希望者が多くて名簿に名前を
載せられないほどでした。みんな本当にがんばってくれました。

進路指導 朝礼をきちんとするという目標できました。何も言わなくてもきちんと
と整列できるようにさせています。よい習慣を作るのが大事です。

進路指導 進路ですが、3年は12月15日から3日間教員が高校に相談に行きま
す。1年生が進路調べ・食育では12月16日(金)に保健所の方がこられ
て生活習慣病などのお話を聞くことになっています。2年生は給食の
献立作りです。栄養・バランス・食べたいものを考えてテーマを決めて
パワーポイントを使って生徒たちがプレゼンをします。

B委員 キャンドルナイトの話ですが、地域での行事ということで意識付けが
できてきたように思います。次年度もご協力お願いいたします。

教務主任 『てくてくなみすけ』というサイトに生徒さんも登場しています。

教務主任 入試相談会12月15日解禁で、推薦入試の加点等について説明を受け
ます。本校で受験を予定しているのは2月10日・11日が基本です。こ
れと平行して都立の推薦・一般受検があります。都立の第一希望調査を
出す予定です。

司 会 私立高校ではどういう事を要求するのですか。

教務主任 2学期の評価ですね。委員会・検定・出欠状況…それらを見て、事前
に相談ということになります。今特進コースが流行っています。私立で
は8クラス中2クラスが特進クラスで、7時間目まであり、部活をやら
ないで勉強をしています。文・理・特進クラスなどがあります。大学の
進学率が高くなりました。(早慶上智などの合格)

C委員 昔は就職時には「部活もやっていないようなヤツは採らない…なんて
いう会社もあるみたいですが、少子化の今、特進クラスのような傾向に
なっていくのでしょうか。

教務主任 面談でよく話を聞いてから決めているので、生徒が特進を希望しない
場合もあります。

C委員 スポーツ特進というのもあるんですね。

教務主任 スポーツに力を入れる学校もあれば、勉強に力を入れる学校もありま
す。テレビに出るようなスポーツは特に力を入れるようですね。

C委員 選ぶのが難しいですね。

司 会 学校名が変わったところもありますね。

校長 女子高が名前を変えて共学になっています。

司 会

報告はありますか。

D委員

広報からの報告は、企画会議中で3学期に出す予定です。

学校支援本部からの報告です。9月からの活動は、委員会・職員会議中の部活みまわり・英検・漢検・数検申し込み、救急救命研修会・図書室蔵書整理・10月は試験前学習会・英検・漢検・数検 11月は英検二次テスト対策をしております。12月6日教育支援企業団体との交流会に出席しました。

司 会

地教懇の全体会が12月7日に杉一小で行われました。被災地にボランティアに行った杉九・東原のPTA・桜田さん、成瀬さんが参加されました。子どもにいろいろな体験をさせようということで、ご高齢者もすごうれしそうだったということでした。その体験を伝えていくのは大切ですね。

B委員

青少年委員では第一回目は「行ってみよう」という試み第二回目は「子どもたちを連れて行ってどうだったか」毎日放送がドキュメンタリーを撮っていました。

地教懇も毎回活発になっています。この3.11を意識して考えなくてはならないですね。自分の目で見て体験するのが大切です。

司 会

何かご質問はありますか？

E委員

PTA 広報誌に中学生レスキューというのが載っていますか、杉森からは参加したのですか。

B委員

天沼小と東原中の生徒さんが参加したのですが、杉森からは参加がなかったですね。

E委員

レスキュー隊の子どもたちにも参加できる機会を与えてほしいですね。まさに自分で体験することの大切さです。被災地ボランティアと切り離すのではなく、連動していけるといいですね。

被災地に行った子は杉森にもいましたよね？

校 長

ボランティア、としてではなくても、親戚などが被災地おり、手伝いに行ってる生徒もいるようです。

司 会

あえて大変なところに行かせるという考えもあるでしょうが、これからは無理のない活動がいいのでは。草むしりしたり、素麺を茹でたり…。中学生でもできるような企画をたてることが大切ですね。

E委員

お互いをエンパamentしていく、人と人のつながりができるような活動をしていけるといいですね。

B委員

スポットで3箇所は定期的に行っています。顔なじみになっています。

《事務局退室》

司 会 では、次の協議事項といたしまして、前回の「学校運営に関する意見書」についてご説明いただけますか。

A委員 前回は踏まえて手直ししたり、言葉を変えて作成しました。

司 会 夏休みを含め、有意義な体験にしてよいのではないのでしょうか。

校 長 夏休み中に行った場合のメリットですが、夏休みの後半にもってきた場合、長期に体験活動をとれると思います。デメリットとしては、この時期部活動の公式戦がたくさんあります。教員の配置に関しては、教員の研修会が入ってきます。前期ですと、学習会と重なってしまいます。総合のカウントをとるとすると他教科の時間が増えてしまう。バランスが崩れてしまいます。2年だけが時数増加ということになります。これをカウントしないとすると、教育課程上どこに位置するかということがでてきます。安全面でも問題が起きてくるでしょう。全学年をそろえるという考えがないわけではありません。ある程度先をみこしていないといけません。

C委員 学校の都合にあわせるのではなく、子どもたちがいかに職場体験を充実させて行えるかという事を学校側で考えていただきたいです。何年か先でなく、すぐにでもやってほしい。

司 会 授業ではない場合、事故が起きる時の保障については問題もありますよね。



E委員 杉並区のしほりがあるということですね。学校の時間外にイベント等に参加できるように、時間の融通がきくようにならないのでしょうか。教育委員会と相談してやっていくしかないですね。

 子どもたちに付き添わなければならないなら、NPO 法人などの力をかりて準教員のような付き添いができればよいのではないのでしょうか。そういったしくみを考えて、突破口を作っていくのが大切です。要綱を見直してほしいということですね。教員の負担軽減ということも考えなくては。教育委員会から区内の事業所を委託していました。

B委員 実際にいってみると、子どもたちが行きたいところとはかけ離れています。そこで各校が自発的に探すようになったんです。

- C委員 教育委員会がもう少しリーダーシップをとってもらいたいですね。事業所についても考えてほしい。
- E委員 区役所内で働けないものだろうか。なぜ区役所で働けないんです？行政がこれでは…。
- C委員 アイデアだけ作って現場でやってくださいではいけないんじゃないでしょうか。杉森でも知恵をしばって見たほうが良い。
- A委員 授業日である事、教育課程にのっとっている事…この意見書が通ったら協議会でどうしていくか話し合わなくてははいけませんね。
- 司 会 キャリア教育という面から見るとどうなのでしょう。
- F委員 総則第三の一では、文科省が見解を示しています。ただし…効果的な場合には夏期・冬期の期間に授業日を設定する場合…これらの授業を特定の期間にできる…について学校で変更してよいかという質問がでています。これについての公式見解は、長期休業については、各設置者が定めることになっています。つまり杉並区教育委員会が定めるということです。
- もう一つ問題になることは、中学校キャリア教育の手引きです。実施時期については、ねらいを効果的に達成できるか、という事を行えるかが言えなくてははいけません。教育情報関係機関の調べでは女子が一番体験したいのは「幼稚園教諭」であるのに、夏期休業ではできないことになります。
- また、5日間の職場体験がなぜ必要かと言う事に関してですが、一日目は緊張、二日目は仕事を覚える、三日目は仕事になれる、四日目は工夫をする、五日目で感動をする…といわれています。5日だからこそ、達成感・満足感・有用感を感じることができるのです。
- B委員 文科省がそこまで打ち出しているのに、なぜ職場体験をする学校が増えていかないんでしょう！
- F委員 2009年PISAの調査で読解力は、体験活動が多いほど伸びるという結果を示しています。外国は校外の学校活動の保障をされています。学力向上のためには、体験活動が非常に重要だという結果がでているのです。
- C委員 保護者の方はもっと勉強にこの時間をあててほしいと思うでしょう。それなら夏休みを減らして、授業時間をとることはできないんですか。学力を向上させるために、よりよい職場体験をやるということを考えていかないといけない。
- F委員 文科省の手引きでは「生徒の希望に沿った体験先と書かれています。自分で直接探すという…。



- C 委員 理想はそうですが、中学生が申し込みに行ったとしても、実際一般の会社がすぐに受けてはくれないでしょう。中学生には無理な話ではないですか。
- F 委員 それを支えるのが、支援本部であり、教員であると思います。
- E 委員 受け入れ態勢をちゃんと作っていかなくては。アルバイト感覚ではなく、きちんとしたプログラムを作ってくれる事業所があるのか。
- F 委員 体験先に目的をちゃんと伝えることはマニュアルにも書いてあります。体験先にも勉強してもらわないと。地域の人が中学生というものを学ぶ事も大事です。
- C 委員 職業調べでの印象と実際を踏まえての体験をしないといけません。華やかな所ばかり行きたがるのは…。
- F 委員 もし断られたら、それはそれで大事な体験になるのでは。
- 司 会 それなりの環境整備が必要ですね。
意見書・キャリア教育については継続して検討してみるということはどうでしょう。
- A 委員 一石を投じるというのが CS の役目だと思います。意見として反映させるためにも、この意見書を出してみてもよいのではないのでしょうか。
- B 委員 子どもの望む事業所が提供できないのは、私たちの教育力が低いからということですね。それは本質なのですから、もっと考えていく必要がありますね。
- D 委員 地域の関連もありますから。
- 司 会 地域にあったキャリア教育を考えていく必要があります。有益なシステムがあるか、継続して考えていきましょう。

